

2022.5.29

## 創立 100 周年記念式典での祝辞

本日は、ご多忙にも関わらず、桜美林学園創立 100 周年記念式典にご出席いただき、心よりお礼を申し上げます。創立者の清水安三先生は、桜美林を訪ねてくださった方々を「桜美林によろこそいらっしゃいました」という言葉をもってお迎えしていました。清水先生にならって、私も本日ご出席くださいました皆様に「桜美林によろこそいらっしゃいました」とご挨拶をさせていただきます。高いところから大変恐縮ですが、桜美林学園を代表してご挨拶を申し上げます。

この度は、本学園のために多大なご支援とご協力を賜っている各界の皆様にお声がけをさせていただきました。文部科学省私学行政課課長・滝波様、私立大学協会会長・小原様には第一部でご祝辞を頂戴いたします。日中協会会長・野田様、町田市市長・石阪様、多摩市長・阿部様、相模原市長・本村様には第二部でご祝辞を頂戴いたしますが、どうぞよろしく願います。公益財団法人日本高等教育評価機構理事長・石井様、日本私立学校振興・共済事業団理事・小瀬様、警視庁町田警察署長・吉田様、町田消防署長・山崎様にもご出席頂いております。なお、本日は、300 人を超える沢山の皆様にご出席いただいておりますが、いずれの皆様も本学園にとりまして掛け替えのない方々でございまして、この場でお一人おひとりをご紹介すべきところではございますが、時間の都合で割愛させていただきますが、どうかご容赦ください。

当初は卒業生を含めた一大イベントとすることを計画していましたが、コロナ禍により計画を縮小し、本日は式典をメインにいたしました。なお、秋には、卒業生と在籍の学生、生徒などを中心としたイベントを計画しております。本日は卒業生の方もいらっしゃると思いますが、秋に開催するイベントをどうか楽しみにして頂けますと幸いです。

昨年 5 月 29 日に創立 100 年目を迎えましたが、コロナウイルスの感染拡大のため、止むを得ず式典を 1 年延期することにいたしました。しかし今なお収束のめどが立っておりませんので、皆様には、本日、様々な点においてご不便をお掛けすることになるものと思いますが、どうかご容赦ください。

1919 年中国北部を襲った干ばつによってもたらされた大飢饉のために、多くの人々の生活が困窮し、特に女性は悲惨な状態に置かれていたとのこと。安三先生は、恵まれない女子に教養を身につけさせ、手に職をつけさせようと 1921 年に北京に崇貞学園を設立しました。その後、日本が敗戦を迎えた 1945 年に、北京市に崇貞学園は接收されました。その崇貞学園は、現在、陳経綸中学として 20 を超えるキャンパスを擁する有名中学に発展して

います。

清水安三先生と郁子先生は、1946年3月に着の身着のまま帰国し、その2か月後の同年5月には、早くも桜美林学園をこの場所に設立しました。その時から皆様のお力添えをいただきまして、お陰様で、76年の間に、桜美林学園は在籍者数が1万人を超える規模にまで成長いたしました。そして本学園で学んだオベリンナーの数は36万人以上に及んでいます。幼稚園、中学校・高等学校はもとより、大学におきましても、本日、皆様にご覧いただいている町田キャンパスを中心に6キャンパスにおいて、日々、教育と研究に専念しているところでございます。

昨年10月に、オンラインで姉妹校の北京市の陳経綸中学と合同で「陳経綸中学・桜美林学園創立100周年記念『清水安三の教育思想』国際シンポジウム」を両校の150人を越える関係者が参加して開催いたしました。

今日まで多くの人々のご理解とご協力を頂くことができました。お陰様で今日の桜美林学園が存在しています。賀川豊彦（初代理事長）、大野一男（学長・理事長）、佐藤東洋士（学長・理事長）などの先生方をはじめ、学園の発展に大きな貢献をしてくださった方々や教職員の方々も然ることながら、表に現れてこないような立場で学園を支えてくださった人々、例えば、学生や生徒たちが気持ちよく学ぶことができるようにと、冬の寒い日でも、しもやけで腫れた手で教室の清掃をしてくださった人々、用務員さん、スクールバスの運転手さん、本学園に土地を譲ってくださった地元の方、そのほか多数の方々の協力を得て、今日を迎えることができました。100年の節目を迎えたことを機に、その様な多くの方々への感謝の気持ちを忘れずに、一緒に創立100周年を祝いたいと思います。

そして最も忘れてならないのは、本学で学んだ卒業生、在学中の学生たちのことです。多くの卒業生が、各界でそれぞれの技量を十分に生かして活躍してくれていますが、それは本学園にとって大きな誇りであり、掛け替えのない貴重な宝です。

清水安三先生が経済的に恵まれない子供たちを救うために作った崇貞学園が桜美林学園の源です。そして清水郁子先生は、『女性は動く』、『明日の女性教育：教育と婦人の問題』などの著者でもあります。『女性と教育』、『働く女性問題』の研究の第一人者でもありました。その創立者の思いを継承しつつ、これまで培ってきた教育力と研究力を遺憾なく発揮し、社会貢献の一助となりますような教育活動に専念いたしたいと思います。

世界の国々と比較して、我が国は、ひとり親の貧困率が極めて高いとされています。特にシングルマザー（母子家庭）において貧困が継承されてしまうことが危惧されます。国内の6人に1人が貧困状態にあると報じられていますが、コロナショックで今後その状況は更に

深刻化することが予想されます。そのような状況の中で、創立者の思いを馳せて桜美林学園として、女性の就労支援に向けた取り組みを進めるにあたって、今何を為すべきか、どのような社会貢献が為し得るのか、積極的に検討して参りたいと思います。

清水安三先生が唱えた「学而事人」を学園のモットーとして大切にしています。「学びて人に事える」、つまり「学んだことを人々や社会のために役立てる」という言葉ですが、人が学ぶこと、教育を受けることの真の意義について述べたものです。自ら学んで、修得したことを実際に人や社会のために役立てるためには、豊かな知識、深遠な学識、柔軟な発想を生むような知恵を身につけておくことが必要です。その不可欠な知識、学識、知恵を学生や生徒にしっかりと教え、身につけてもらうことができる、そのような学校でありたいと強く願っています。その学びを通して、人にやさしい、人のことを十分思い遣ることができる、豊かな人間性を備えた学生や生徒を輩出できる、そのような桜美林学園であり続けたいと強く願っています。101年目を迎えたこの時点において、創立者が掲げた「学而事人」の教育理念を根幹として、今後の100年に向けての新たな教育活動の第1歩を踏み出すことを考えています。

今後も、本学園が多くの皆様に愛され、信頼され得る教育機関として社会貢献ができますよう、教職員が一丸となって努力いたして参ります。どうぞ引き続き変わらぬご支援、ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます、私からのご挨拶とさせていただきます。

ご清聴ありがとうございました。

桜美林学園理事長  
小池 一夫